

## ヘルパンギーナ : Herpangina

### 1 症状

---

突然の高熱に続いて、のどの奥が赤くなり、口の中に1～2mmの水疱ができます。水疱は破れて痛むので、不機嫌になったり、食事や水分を十分にとれなくなって脱水症になることがあります。発熱時に熱性けいれんを起こすこともあります。ほとんどの場合、2～4日で解熱し、やや遅れて口の中の水疱もよくなります。まれに髄膜炎、心筋炎を合併することがありますので、子どもをよく観察し、頭痛や嘔吐が現れたら、すぐに医療機関を受診しましょう。潜伏期は2～4日です。

### 2 流行

---

毎年、5月頃から増加し始め、通常、6～7月にかけてピークとなり、8月に減少します。4歳以下の子どもがほとんどで、中でも1歳以下が最も多くかかります。

#### 過去5年間の流行状況

### 3 治療

---

発熱や頭痛などに対して解熱剤を用いることがありますが、特別な治療はありません。脱水に気をつけ、薄いお茶やスポーツ飲料等を少しずつ、頻回に与えましょう。

### 4 原因と予防

---

エンテロウイルスが原因です。ウイルスは、ヘルパンギーナにかかった人の咳やくしゃみ、つば等のしぶきや、便の中に排出されます。感染者との密接な接触を避け、オムツを処理した後や排便の後は石けんで十分に手を洗いましょう。ヘルパンギーナは、症状が消失した後も便中へのウイルス排出が2～4週間続きますので、日頃から、しっかりと手を洗いましょう。

### 5 学校保健安全法

---

ヘルパンギーナは学校において予防すべき伝染病の中には明確に規定されては無く、一律に「学校長の判断によって出席停止の扱いをするもの」とはなりません。したがって、欠席者が多くなり、授業などに支障をきたしそうな場合、流行の大きさ、あるいは合併症の発生などから保護者の間で不安が多い場合など、「学校長が学校医と相談をして第3種学校伝染病としての扱いをすることがあり得る病気」と解釈されません。

### 6 さらに詳しい情報が必要な方へのリンク先

---

・[ヘルパンギーナとは（国立感染症研究所）](#)